

令和3年度
青少年健全育成地区委員会等
推進モデル事例集





はじめに

次代を担う青少年が心身とも健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。地域の方々とのふれあいや体験の中で、青少年は多様な価値観に触れ、社会性を身につけていきます。

都内には722の青少年健全育成地区委員会があり（令和3年4月1日現在）、地域の実情に即した活動を行っています。本事例集では、地区委員会等が主体となって地域ぐるみで青少年を健全に育成する取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として紹介しています。参考にしていただくことで、それぞれの地区の青少年の健全育成に関する活動がより活発になり、広がってゆくことにつながれば幸いです。

今年度は、モデル事例に加え、地域の取組、東京都の青少年健全育成事業のほか、コロナ禍における「新しい日常」を踏まえた地区委員会の活動に関するアンケート結果などを掲載し、内容を充実させました。

また、アンケートにつきましては、各地区委員会の委員及び各区市町村の担当の方々に御協力をいただき、貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。

この冊子がみなさまの今後の活動の一助となりますよう、願っております。





目次

■ モデル事例の紹介

- 事例1 文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会 …………… 1
文京区青少年健全育成会九地区合同行事「文の京こどもまつり」
折鶴に願いを込めて届けよう ～5670～9地区で力を合わせて
- 事例2 大田区青少年対策田園調布地区委員会 …………… 5
建築家 隈 研吾 氏 講演会 ～未来を担う子どもたちへ～
- 過年度青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例等一覧（直近10年間） …………… 8

■ 地域の取組事例の紹介

- ～地区委員会の「新しい日常」を踏まえた取組～ …………… 9
- 足立区青少年対策中央南地区委員会
- 調布市健全育成推進緑ヶ丘地区委員会
- ～多文化共生の取組～ …………… 13
- 目黒区国際交流協会

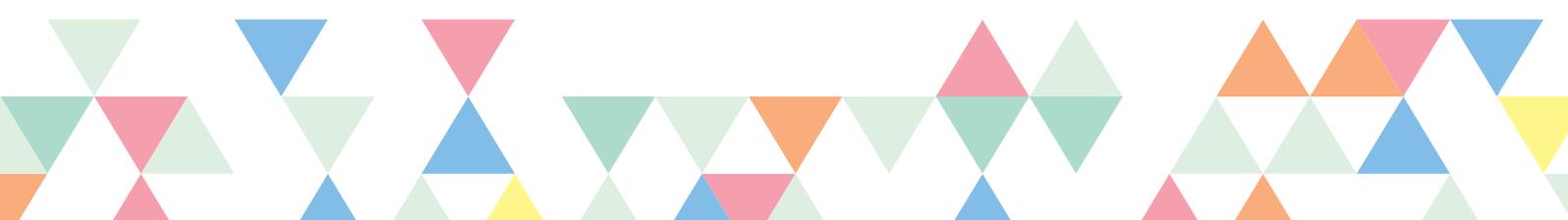
■ 特 集

- 「令和3年度青少年健全育成地区委員会
新しい日常を踏まえた取組に関するアンケート」結果 …………… 15

■ 参考情報

- 東京都の青少年健全育成事業（概要） …………… 23
- 東京都の青少年健全育成事業 レポート …………… 24

■ 青少年健全育成地区委員会等推進モデル事業 次年度の募集について …………… 28



▶ モデル事例 1 文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会

モデル事例に応募いただき、指定された取組を紹介します。

文京区青少年健全育成会九地区合同行事

「^{ふみ}文の^{みやこ}京こどもまつり」

折鶴に願いを込めて届けよう ～^{コロナゼロ}5670～9地区で力を合わせて

1 文京区青少年健全育成会の概要

文京区青少年健全育成会は、旧出張所の地区単位の9地区で構成されています。委員は主に町会、PTA、青少年委員などで活躍されている方々が中心となり、総勢740名おります。マラソン大会、おまつり、スキー教室、料理教室、バスハイクなど、地区により様々なイベントを実施しています。

2 「文の京こどもまつり」について

(1) 事業開始の経緯

このイベントは、9地区が合同で実施することを前提に、昭和48年に「大島一周船の旅」から始まり、観光バス数台によりバスハイク、西武特急を借り切った秩父の旅などを行いました。平成14年度の40周年を契機に、地元の教育の森公園で10数か所の遊びブースを設ける「文京こども広場」を実施以降、このイベントが定着していましたが、令和2年度はコロナ禍により、感染症対策を行いながら実施できるスタンプラリーを実施しました。

(2) 事業概要

- 令和2年11月8日(日) 文京区の日 午前10時から午後3時まで
- 文京区内11会場(礒川地域活動センター、千石公園、窪町東公園、音羽児童遊園、本郷台中学校、駒本小学校、不忍通りふれあい館、保健サービスセンター本郷支所、神明都電車庫跡公園、教育の森公園、本郷小学校)
- スタンプラリーカード配布数751枚
- 完歩者数141人
- 来場者数1,877人
- 実行委員会で話し合う中で、コロナ禍で、これまで行ってきたイベントのやり方では中止せざるを得ないが、別の形式で子どもたちに何か楽しみを届けたい、という思いからスタートしました。その中で、スタンプラリーなら実施できるのではないかと提案があり、結果的には、区内全体を回る大きなコースとなりました。話し合いの中で、新型コロナウイルスの早期終息を願い、また、医療従事者への感謝を込めて、5670(コロナゼロ)羽の折鶴を集めようと実施、結果的には、それ以上の6,874羽の折鶴が集まり、12月に集まった折鶴の展示を行いました。
- 広報は、区内の小学校・幼稚園・保育園にポスター・チラシを配布するとともに、区報、区のホームページ・SNSで周知しました。



折鶴の展示(文京シビックセンター1階)

(3) 「新しい日常」を踏まえた工夫ポイント

実行委員会では、どのように感染症対策を行うか何度も話し合い、感染拡大防止ガイドラインに沿った3密の回避、マスク着用、手指消毒、検温、参加者の氏名等の記載、折鶴回収では、参加者自らが回収箱に折鶴を入れてもらい、そのまま箱を閉め、3日間開けないなどの対策を決めました。さらに、その内容を区の感染症予防対策の専門委員に確認してもらいました。そのことにより、参加者だけでなく、スタッフも安心してイベントに取り組むことができたように思います。

(4) 当日の実施の様子

当日は天候に恵まれ、良い条件のなか開催することができました。例年のイベントは一か所で開催していたため、スタンプ会場の開始時間を合わせることで、会場が別々でもスタッフに一体感が持てるようにしました。また、情報共有として、担当間の連絡方法にグループLINEを活用しました。

スタンプラリーと共に、医療従事者への感謝と新型コロナウイルスの早期終息の願いを込めて、参加者に折鶴を届けてもらうことも目的の一つで、折鶴を受け取る際に直接触れることの無いよう、各地区のスタンプ会場で気を配りました。

実行委員を中心に育成会スタッフが、感染防止対策の呼びかけ→受付票の確認→受付→スタンプカードへ地区のスタンプを押印、参加者への声掛け、ソーシャルディスタンスを保った整列の声掛け等、担当分けを行い、日頃の地域活動で培ったノウハウを生かし、案内・誘導を行っていました。スタンプポイント間が遠いところもあり、地図を見ながら次のポイントへの案内も行いました。次のポイントが遠いと躊躇する参加者へは、途中の公園やわかりやすいポイントを紹介するなど、地域の人ならではの案内を行っていました。特に地区の違う参加者には、わかりやすく、興味を引く誘導を心がけたようです。実行委員は、1時間ごとにスタンプラリーカードの配布枚数、状況を報告するなどにより、他の地区と連携を取り、ラリーカードの過不足の調整も行いました。

例年は、同じ会場で他地区の状況が見え、連携を取りながら進行していたので、今回は他地区の状況報告を実行委員が随時LINEで行いました。

教育の森公園、本郷小学校のゴール会場では、景品配布の準備を行い、ゴールしてくる子どもたちを待ちました。回った会場のスタンプ数に応じて景品をビニールプールの中から選びます。



受付でスタンプをもらう様子



スタンプラリーカード

▶ モデル事例 1 文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会

ビニールプールの中の景品は、文具、お菓子等 20 種類と子どもたちが好みそうなものを用意しました。子どもたちが選びやすいような景品の配置の工夫や、子どもたちの目線を気にしながらのディスプレイは、スタッフたちも楽しそうでした。

開始から 2 時間半を過ぎたころからゴールする親子が来場し始め、ゴールスタンプの押印、景品数の確認後、景品配布会場へ案内しました。子どもたちをビニールプールの前へ誘導、スタッフは景品数の確認をし、ゴールをしたことを称え、ご褒美ゲームの景品選びが楽しめるような声掛けを心がけていました。なかなか選べない子どもにも根気強く付き合っていました。

時間が進むにつれて来場者が増え、ソーシャルディスタンスを保てるよう、スタッフ総出で誘導に回りました。実行委員長が LINE でラリーカードの配布終了時間（ゴール終了 30 分前）を告げると、スタッフはゴール近くの会場から自主的にゴール会場へ手伝いに来ました。実行委員長からの合図で終了、その後はスタッフ全員で撤収、会場の清掃を行いました。



ゴール会場



景品を選ぶ子どもたち

スタンプの数	1 個	2～3 個	4～6 個	7～8 個	9 個
景品数	1 個	2 個	3 個	5 個	9 個

(5) 参加者の反応

コロナ禍で、様々なイベントが中止になる中、開催してくれてありがとうと、何人もの参加者から感謝と激励の言葉をいただきました。親子での参加が大半でしたので、疲れたけど楽しかったねと笑顔で顔を合わせている姿が印象的でした。また、開催の趣旨を理解してくれた参加者も多く、「折鶴を家族で折りました」、「折鶴を9か所に分けて持ってきました」という参加者もいました。「スタンプラリーに参加して、今まで知らなかった公園などを見つけることができよかった」との感想もいただきました。

(6) 事業を通して得られたものや課題

新型コロナウイルスの感染者数によっては開催をできないことも視野に入れながら、それでも子どもたちに何か楽しんでもらいたいと、開催方法を検討、準備を進めました。コロナ禍で開催をしようとする事へのハードル（開催への理解を得ること）が高いと感じながら当日を迎えました。しかしながら、このような社会状況の中でも取り組んだことにより、スタッフ、参加者共に達成感を感じることができ、「文の京こどもまつり」が開催で



参加者からの折鶴



親子での参加が大半

きたことを喜ばしく思いました。今年度もコロナ禍により、スタッフ協力の呼びかけが難しかったですが、今後は、地域の新たな人材や青少年ボランティアに積極的に呼びかけを行い、事業をより活性化していきたいと考えています。

3 終わりに

令和4年度に、育成会は60周年を迎えます。文京区の子どもたちが事業を通して健やかに成長していけるよう、新たな取組や事業内容を考えていく予定です。子どもたちの笑顔のため、頑張っまいります。

新しい日常を踏まえた活動のポイント・メリット

- | | |
|--------------------------|---|
| <p>コロナ禍の新たな企画</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 子供たちが楽しみながら地域を知ることができるスタンプラリーを提案 ▶ 「医療従事者への感謝」を家庭で話題にし、思いやりの心を醸成 |
| <p>専門家の活用</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 医療関係者による専門的な意見を踏まえた感染対策を講じて実施 |
| <p>密を避けた体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 会場を屋外に設け、SNSの活用とマニュアルに沿った運営で最小限の人数で対応 |
| <p>少人数で参加・交流</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ スタート時間やコースを縛らず自由に区内を回る企画のため、親子参加が増加 ▶ スタンプや景品をもらう会場では、子供と地域の大人がつながる機会を提供 |
| <p>集まらずに集める</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 参加者から集めた折鶴をひとつの作品にして展示することで一体感を演出 |

子供たちが笑顔になる企画や様々な人とつながる機会を作りたいという思いから、従来のお祭りに代わるスタンプラリーの企画が生まれました。コロナ禍でも子供たちが安全に参加でき、また家庭で折鶴を作ることで「医療従事者への感謝」などを話題にする機会となりました。

【この事業についての問合せ】

文京区教育推進部児童青少年課青少年係 【電話番号】 03-5803-1186

▶ モデル事例2 大田区青少年対策田園調布地区委員会

モデル事例に応募いただき、指定された取組を紹介します。

建築家 隈 研 吾 氏 講演会

～未来を担う子どもたちへ～

1 大田区青少年対策田園調布地区委員会の概要

大田区では、区の委託を受けて、18地区でそれぞれ青少年健全育成のための活動を行っています。地区委員会合同で、区内8会場で開催している大田区子どもガーデンパーティーや地域のリーダーを育成するリーダー講習会（小学生対象）を行っているほか、田園調布地区では講演会、農業体験、宿泊研修などを行っています。

2 「建築家 隈 研 吾 氏 講演会」について

(1) 事業開始の経緯

田園調布地区にゆかりがあり、生き活きと活躍している方から子どもたち向けに講演いただくことで、子どもたちのキャリア形成などの一助とするとともに、子どもたちが地域に愛着を持って育ってほしいと考え、講演会を毎年実施しています。令和2年度は、田園調布せせらぎ館オープン日に合わせて講演会を実施しました。

(2) 事業概要

- 令和3年1月16日（土）午後1時30分から午後3時まで
- 田園調布せせらぎ館で、館の設計を担当し、田園調布で子ども時代を過ごした建築家の隈研吾氏を講師としてお招きし、田園調布中学校の生徒を対象とした講演会を実施しました。司会は西山喜久恵アナウンサー（フジテレビ）にご協力いただきました。
- 事前準備として、講師に話してもらいたいことや質問したいことを生徒たちにアンケートをとり、地区委員会議で内容や質問について話し合い、決めていきました。コロナ禍だったこともあり、早い段階から子どもたちや一般の方向けにオンライン配信する可能性があることを踏まえ、個人情報やセキュリティ面についても考慮しながら進めました。
- 広報については、区の発行する地域情報紙や区ホームページ、せせらぎ館ホームページに掲載するとともに、生徒たちへチラシ配布などを行いました。
- 当初は、生徒たちを集め、会場で直接講演を聞いていただく予定でしたが、開催日直前に緊急事態宣言が発令されたため、急遽会場での観覧は代表者のみ（生徒5名）とし、他の参加者はリアルタイムでのオンライン配信に切り替えました。また広く講演をご覧いただくため、後日一般の方向けに申込制の配信を実施しました。
- 講演会の流れについては、地区委員会の説明、地区委員会会長挨拶、田園調布中学校長挨拶および学校紹介、講師から田園調布せせらぎ館の魅力紹介及び生徒たちへ向けたお話（今までの経験、アドバイスなど）、生徒たちからの質疑応答、花束贈呈、記念撮影の順で実施しました。

なお、今回講演会を実施するにあたっては地区委員会が主体となり、大田区、田園調布せせらぎ館の指定管理者である田園調布せせらぎハーモニーの協力のもと実施されました。



せせらぎ館外観



講演会の様子

(3) 「新しい日常」を踏まえた工夫ポイント

事前の会議は新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせ参加人数を調整しながら開催しました。講演会当日についても、地区委員会の委員は会長及び副会長、写真撮影の担当者^{のみ}の参加とし、他の委員はオンライン配信で講演を視聴しました。

また、新型コロナウイルスが収束しない場合でも事業を実施できる方法を早い段階で話し合い、オンライン配信などの準備をしていたことにより、緊急事態宣言が開催直前で発令された際にもスムーズに開催方法を変更することができ、感染対策をしながらも多くの生徒たちに講演を聞いてもらうことができました。

(4) 当日の実施の様子

当日は会場で、午前中に委員と区職員でリハーサルを行い、流れや映像の切り替えタイミングなどを確認しました。講師と司会の打合せ、委員と生徒とで質問のタイミングの打合せなども行いました。

講演会中、委員は花束の準備や生徒が質問する際のマイクの受け渡し、マイクの消毒などを行いました。生徒は、講師に質問する際は緊張していた様子でしたが、講師の話に終始真剣に耳を傾けていました。

講演会後は、生徒からの花束贈呈と記念撮影の時間を設け、代表として会場参加した生徒たちは講師や司会者との撮影に加え、講演会を会場で観覧いただいた区長とも記念撮影をするなど、交流がみられました。「田園調布せせらぎ館の建築を見て将来の夢が一級建築士に決まった」という生徒もあり、記念撮影の際に講師である隈研吾氏からサインをもらい大変喜んでいました。



生徒と委員の事前打合せの様子

(5) 参加者の反応

参加した生徒たちからは、「建築に興味がなかったが興味が湧き楽しめた」「あこがれの隈研吾さんとこんなにも早くお会いできるとは思っていなかった」「これから大事になってくることを聞けて良かった」などの感想をいただきました。また、保護者からも感銘を受けたという意見を多くいただきました。

▶ モデル事例2 大田区青少年対策田園調布地区委員会



生徒からの質問



花束贈呈

(6) 事業を通して得られたものや課題

このオンラインでの講演会を実施したことで、例年どおりの事業実施が難しい場合でも、みんなで話し合い考えることで、新しい取組ができると感じました。また、今回オンライン配信を実施したことにより、今後の事業にも抵抗なく積極的にICTの要素を取り入れることができるようになったと思います。

課題としては、会議の多くは5人程度に人数を絞り実施したため、多くの委員は企画の段階から参加できず、委員全員の意見を取り入れることが難しかったことです。会議についてもオンライン化を図り、より多くの委員が会議に参加できる仕組みを作っていく必要があると思います。

3 終わりに

世界的に活躍する方のお話を聞くという貴重な経験を今後の糧として、参加した子どもたちには自分の育った地域に誇りと愛着を持って、将来自分の夢に向かって進んでくれることを期待します。今後も、オンラインなどを活用していきながら、地域の子どもの健やかな成長をサポートする事業を実施してまいります。

新しい日常を踏まえた活動のポイント・メリット

- | | |
|----------|--|
| オンライン開催 | ▶ 中学生が家庭で視聴することにより保護者の参加も増加し、対話のきっかけを提供
▶ マニュアルに沿った運営で最小限の人数で対応 |
| 地域の魅力を知る | ▶ 子供たちが新しい地域施設で地域出身者の講演を聞くことで、地域を身近に実感
▶ 学校での学習とは異なることを体験 |
| 進路学習の機会 | ▶ コロナ禍でもキャリア形成の取組を途切れさせないために実施
▶ 中学生が将来への興味・関心を高められる内容を提供 |
| 地域連携 | ▶ 事業実施直前に緊急事態宣言が出る中、地区委員会、NPO、学校、行政が連携して実現 |

感染状況の変化や行政の方針転換等により、開催方法がオンラインや会場とオンラインの併用など二転三転したにも関わらず、関係団体と連携しながら柔軟な対応を行いました。魅力ある地域出身者や新しい施設など「地域の財産」を絶好のタイミングで子供たちと共有したいという強い思いが、子供たちの地域への想いを育む機会を作りました。

【この事業についての問合せ】

大田区田園調布特別出張所 【電話番号】 03-3721-4261

過年度青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例等一覧（直近 10 年間）

	事例名	場所	取組主体
平成 23 年度	東京ナイトウォーク	江東区	江東区青少年対策小松橋地区委員会
	「わが町板八小の運動会」～地域と学校が力を合わせて実現～	板橋区	板橋区町会連合会富士見支部
	戸塚地区安全・安心マップ「とまっぷ」の作成について ～戸塚地区を「子どもを育てやすい、安全・安心なまち」へ～	新宿区	戸塚地区協議会とまっぷ実行委員会
	地域で育てるジュニアリーダー	世田谷区	青少年松沢地区委員会
	第 30 回三町合同中学生スポーツ大会 「高尾山ナイトハイク」	立川市	三町合同中学生スポーツ大会実行委員会（曙町子ども会育 成者連合会、栄町子ども会連合会、高松町子ども会連合会）
平成 24 年度	「地域レクリエーション」 ～牛込第一・牛込第三中学校生徒会による企画・運営～	新宿区	新宿区笹塚地区青少年育成委員会
	生徒の想い まつりを創る、文花中地域ふれあいまつり	墨田区	文花中地区青少年育成委員会
	親子で農業体験～じゃがいもクラブ・だいこんクラブ～	世田谷区	青少年上祖師谷地区委員会
	西砂川地域ふれあい松明祭り	立川市	立川市青少年健全育成西砂川地区委員会
	「三鷹中央学園の子どもたち」 ～おかあちゃんたちが創る、こどもたちの未来へのかけはし～	三鷹市	みたかスクール・コミュニティ・サポートネット
	子どもたちの食から地域のきずなまで、 農業・食育体験教室	青梅市	青梅食育クラブ
こどもの家オリエンテーリング	調布市	調布市健全育成推進染地地区委員会	
平成 25 年度	「目黒区青少年委員会の試み」 ～中高生による駄菓子屋と工作教室の運営～	目黒区	目黒区青少年委員会
	あいさつ運動	目黒区	目黒中央中学校区地域教育懇談会
	栄町・若葉町少健プール	立川市	少健栄町地区委員会、少健若葉町地区委員会
	「共成小地区委員会」～子供と大人、大人と大人の橋渡し～ 一年生下校時付き添い隊・見守り隊	昭島市 清瀬市	青少年とともにあゆむ共成小地区委員会 清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会
平成 26 年度	みなとキャンプ村	港区	港区青少年対策地区委員会
	一中学区青少年対策事業 (標語コンクール・意見発表会・巣立ちの会)	三鷹市	三鷹市青少年対策第四・第六・南浦地区委員会
	青梅っ子わいわいフェスタ	青梅市	青梅市青少年対策青梅地区委員会
平成 27 年度	落一育成会スノーツアー ～子供に雪国の楽しさ厳しさを体験させる～	新宿区	新宿区落合第一地区青少年育成委員会
	菅刈キャンプ ～「次世代コミュニティリーダー育成」の実践～	目黒区	目黒区菅刈住区住民会議青少年事業部
	商店街探検・店員体験	町田市	町田市青少年健全育成原町田地区委員会
	田んぼ・畑活動	町田市	町田市青少年健全育成小山田地区委員会
平成 28 年度	練馬区子どもフェスティバル	練馬区	練馬区青少年育成第四地区委員会
	いけばな子ども教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	ハヶ岳キャンプ	多摩市	多摩市落合地区委員会
平成 29 年度	深小キャンプ	調布市	調布市健全育成推進深大寺地区委員会
	復興支援 フリーマーケットとおもちつき	小平市	小平市青少年対策二小地区委員会
	横山地区青少年育成ロードレース大会	八王子市	八王子市青少年対策横山地区委員会
	羽村市青少年健全育成の日事業（子どもフェスティバル）	羽村市	羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会
平成 30 年度	中学生対象事業	品川区	品川区青少年対策荏原第三地区委員会
	ふれあいニューイヤーマラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成葛西第二地区委員会
	小学校卒業記念ナイトウォーク	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	もちつき会	あきる野市	あきる野市青少年健全育成五日市地区委員会
令和元年度	牛込第二中学校との連携事業	新宿区	新宿区早稲田地区青少年育成委員会
	農業体験学習（田植え・稲刈り）	大田区	大田区青少年対策新井宿地区委員会
	防災キャンプ	大田区	大田区青少年対策蒲田東地区委員会
	学校プレイパーク	江戸川区	江戸川区青少年育成松江北地区委員会
令和 2 年度 (リーフレット※)	じゃがいもクラブ	世田谷区	青少年上祖師谷地区委員会
	【在宅版】みねまち親子木工教室	大田区	青少年対策嶺町地区委員会
	職場体験・動画版	墨田区	桜堤中地区青少年育成委員会
	一地域みまもりクエスト	武蔵野市	青少年問題協議会第一地区委員会

※コロナ禍により事例集未作成

▶ 地域の取組事例の紹介 ～地区委員会の「新しい日常」を踏まえた取組～

新しい日常を踏まえ、地域で工夫している事例を紹介します。

足立区青少年対策中央南地区委員会

じゃがいもや野菜を食べて絵やレシピを描こう！

～生活習慣病にならないために！野菜を食べるが勝ち（価値）～

(1) 事業開始の経緯

昨年度は事業がほぼ全て中止となりました。今年度、じゃがいもバスハイクの中止を決めた際、今後も活動が制限されるのではないかと危機感がありました。そんな中、会議で「子どもたちのために出来ることはしたい」という声があったのがきっかけです。

(2) 活動内容

事業が中止となったため、佐倉草ぶえの丘から販路の目途が立たないじゃがいもを昨年度同様購入することに加え、家族で食について学んでもらうことを目的として、応募用紙にじゃがいもや野菜の絵やレシピをお家で描いてもらいました。

また、足立区のこころとからだの健康づくり課で作成した、糖尿病対策チラシ、「ちょい増し野菜レシピ」を見ながら料理することで ①食事をするときは野菜から食べること ②しっかり野菜を食べることで生活習慣病のリスクを減らすことの周知も目的としています。

購入したじゃがいも引渡し日の6月12日に応募用紙、チラシやレシピを配布し、7月30日までを応募期間としました。

広報は、事業に向けて、地区対の理事が主体となり、意見交換しながら本企画のチラシを作成し、回覧や子ども会などで周知しました。

描いてもらった作品は、各町会・自治会で取りまとめ、後日参加賞をお渡ししました。

(3) 新しい日常を踏まえた工夫・取組

「お家でできる」をキーワードに、じゃがいもバスハイク同様、食育について学べる機会が提供できる事業を考えました。足立区民の1日の野菜摂取量は国が推奨する量に130g足りていません。足立区が同時期に実施している食育月間を利用し足立区からの協力を得ながら、チラシや野菜が摂れるレシピを配布しました。また、本企画の参加者には、夏休みのお家時間を利用して読書をしてほしいという思いから、図書カード500円分をお渡ししました。

(4) 実施の様子

佐倉市から各町会・自治会で指定した神社等に、トラックでじゃがいもを配達してもらいました。荷下ろしから、会場設営、じゃがいもの受け渡しに、本企画の資料一式などをお渡ししました。毎年じゃがいも掘りを楽しみにしている方も多く、じゃがいもの受け渡しの会場に来られた方やスタッフと少しばかりの談笑があり、会場は、短い時間の中でも、世代を超えてつながり、にぎわう、交流の場となっていました。その後も、じゃがいも美味しかったとか、来年も楽しみにしているという声があり、今年はそれに加えて、各ご家庭のじゃがいもレシピなどを描いてくれる方もいて、時間が経っても地域の話題の一つになりました。

(5) 事業を通して得られたものや課題

出来ない理由を考えるのではなく、少し工夫して形が変わっても、今できることに取り組む姿勢がより一層強くなりました。

そうした「気づき」が、じゃがいもから始まり、オンライン研修、ゴミを拾ってサンタプロジェクト、伝統ある綱引大会を中止してのポッチャ大会の実施につながりました。新型コロナウイルスへの対応を考えたことで、地域の力がより一層強化されたように思います。また、新型コロナウイルスが収束した場合、コロナ禍仕様で実施した事業を継続していくか、今後検証する必要があると考えています。



じゃがいも受け渡しの様子



応募作品

例年継続してきたバスハイクの中止は、これまで交流してきた地域とのつながりを改めて考える契機となり、多くの関係者を巻き込みながら、「食」を考える新たな企画となりました。家庭で楽しく取り組みながら地域とのつながりが持て、食に関わる大切な気付きや発見もあり、さらに参加者が増えたことでイベント終了後に世代を超えて交流できる取組となりました。

【この事業についての問合せ】

足立区中央本町区民事務所 【電話番号】 03-3880-5904

▶ 地域の取組事例の紹介 ～地区委員会の「新しい日常」を踏まえた取組～

新しい日常を踏まえ、地域で工夫している事例を紹介します。

調布市健全育成推進緑ヶ丘地区委員会

2020 緑ヶ丘テレワーツ

～紙上で遊ぼう～♪ 児童館まつり「みどわーつ」が「テレワーツ」に大変身！！
集まらないお祭り 紙上仮装パーティーにようこそ～

(1) 事業開始の経緯

新型コロナウイルスの感染が広まり、緊急事態宣言が発令されると、事業の中止は当然という風潮が一気に高まりました。しかし、いくつか中止を決断するうちに、中止とは何もしないことなのか、今だからこそ出来るものがあるはずだという共通認識が生まれ始め、「児童館まつりを、集まらないお祭りとして冊子に出来ないか」という熱い提案が生まれたのはごく自然な流れだったのだと思います。

(2) 活動内容

毎年10月下旬に行われる児童館まつりは、ハロウィンを基調としています。通称の「みどわーつ」もハリーポッターのホグワーツ魔法魔術学校から由来し、「ハロウィン仮装大会」「おぼけかぼちゃの重さ当て大会」などが行われます。

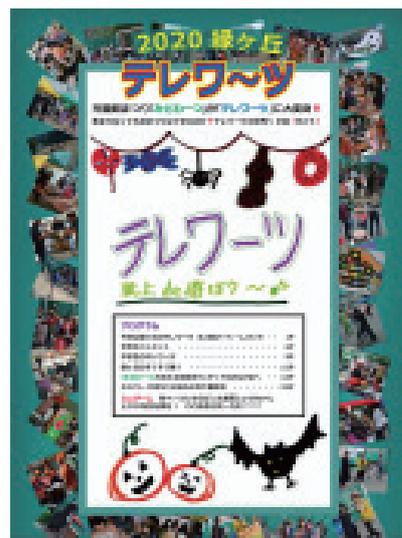
また、館内は子供たちが企画したたくさんの出店や、地域団体による特色ある出店や工作コーナーなど、行列ができる程の賑わいです。

この「みどわーつ」を冊子で再現し、11月の発行を目標に、7月から企画、8月25日に募集チラシを配布しました。メインとなる「仮装大会」は写真を応募してもらいました。「かぼちゃの重さ当て大会」は密を防ぐことと非接触を心がけ、投票期間を長く取り、児童館に置いてある巨大かぼちゃを「エスパー」の力（目算）で当てるといった内容に変更しました。児童館の子育てひろばのお子さんにもハロウィン風の写真を募集し「緑ヶ丘のすくすく隊」として紹介しました。お世話になっている地域の方からも写真を提供してもらいました。

また、この冊子のコンセプト企画として「手形モニュメント」を考案しました。手形を画用紙に書いてもらい、児童館の壁に貼って太陽をイメージした手形モニュメントを作りました。メインコピーは「集まることはできないけれど、心はつながってよう！」。モニュメントの制作は中学生の有志が担当しました。このバトンタッチがコンセプトをより深くしてくれたと感じられました。中学生にはハロウィンのイラストも描いてもらい、個性溢れる作品がこの冊子を見事に演出してくれました。

(3) 新しい日常を踏まえた工夫・取組

青少年健全育成事業で大切な事は大人と子どもの触れ合いです。その根幹を封じられると中止せざるを得ないという固定観念を取り去ってくれたのが、この冊子作りだったと思います。素材を募集して作る冊子は、子どもたちに参加した気持ちを持たせることができました。



冊子（表紙）



エスパかぼちゃの重さ当て大会



手形で作った太陽のモニュメント制作風景

(4) 実施の様子

学校を通して冊子を配布したため、その瞬間を私たちは見ることはできませんでしたが、仮装した自分たちがいつもとは雰囲気が違う児童館や学校（写真を加工した）に登場し、最後には力を合わせて新型コロナウイルスを撃退するストーリーや、ウォーリーを探せのようなミニゲームもあり、十分に楽しんでもらえたのではないかと思います。

(5) 事業を通して得られたものや課題

ミニゲームでは、ウォーリーさながら児童館のスタッフがマリオなどいくつかのキャラクターに扮し、ポーズをとってくれました。この企画に喜んで参加して下さったのが小学校の校長先生でした。自らスタートレックの衣装を発注し、自作の小道具でポーズをとって下さいました。応募された子どもたちの写真は「家族と一緒に一枚を作り上げた様子」が手に取るようにわかるものばかりでした。「子どもたちのために」。この気持ちが冊子の中に凝縮されています。コロナ禍では同じ事業を違う視点から見直すことが出来ました。どんな時でもスムーズな運営ができる体制づくりがこれからの課題だと思います。



冊子（仮装パーティのページ）

児童館まつりの中止を「今だからこそ出来るもの」という逆転の発想により、集まらずに楽しく一体感の持てる企画にしました。仮装大会を写真応募で開催するなど、視点を変えたイベントをいくつも見出し、ひとつの作品や冊子にまとめました。中学生の活躍の場の設定や学校を通じた冊子の配布など、地域・家庭・学校がつながる取組となりました。

【この事業についての問合せ】

調布市子ども生活部児童青少年課子ども若者支援係 【電話番号】 042-481-7536

▶ 地域の取組事例の紹介 ～多文化共生の取組～

目黒区交際交流協会に御協力いただき、地域で取り組む多文化共生の事例を紹介します。

学生による在日外国人に向けた 夏休み企画・運営イベント

目黒区国際交流協会

◆団体紹介◆

目黒区国際交流協会は、目黒区における多文化共生社会の実現のために、区民主体の国際交流の推進、日本語学習機会や多言語での行政・生活情報の提供等による外国人住民の支援などを行っています。

◆イベント概要◆

～夏体験ボランティア『学生による在日外国人に向けた夏休み企画・運営イベント』～

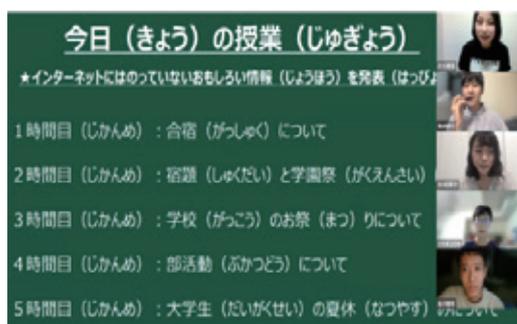
「日本の夏」をテーマとして、2日間に渡り学生がグループごとに発表内容を企画・資料作成をし、3日目に在日外国人に「やさしい日本語」を用いてインターネットの情報からは得ることができない学生の夏休みの過ごし方について紹介をしました。発表後は、実際にやさしい日本語を用いて学生と外国人が交流を楽しみました。

◆開催目的◆

学生がボランティア活動に対する参加意識をより身近なものとして捉え、活動を通して得る感謝の気持ち、企画運営を成し遂げた達成感、また「やさしい日本語」を使うことで外国人の立場に立ったコミュニケーション方法を体験することを重点的なテーマとしました。また、この活動を通して学生が将来の「可能性」について、より広い視野を持つきっかけとなるよう願いを込めて開催しました。

◆イベントの着目点◆

発表はグループのテーマに沿って、学生が全員1人ずつ発表を行う参加形式にしました。準備段階のグループワークでは、グループごとに資料を共有して、互いにフィードバックをし、より良い発表となるよう意見を出し合うことで学生同士の繋がりも深まりました。オンライン上でも、国際交流を伴う幅広い年齢層の交流の場で、普段関わることが少ない相手とのコミュニケーションを実現するとともに、若い世代へボランティア活動に積極的な参加を促す機会になりました。



学生が作成した発表資料



学生が作成した発表資料

◆参加者からの声◆

〈外国人〉

- ・ 普段繋がりのない方々と交流することができ、とても良い体験になりました。若い世代の日本人と自分たち自身のことを話せる貴重な機会でした。
- ・ 説明から写真や動画まで色々工夫し、丁寧に用意してくれて、素晴らしい企画でした。
- ・ 学生さんと話せたのが良かったです。みなさんの将来や関心事が、とても興味深かったです。

〈学生〉

- ・ 正直、オンラインだと上手く交流ができないのではないかと考えていました。しかし、実際にやってみると話し合いの中で沢山のアイデアが出てきて、オンラインで出来る最大限の伝え方が出来たと実感しております。
- ・ 最終日、外国人の方々と交流し、日本語を一生懸命しゃべってくださったところが心に残りました。
- ・ 今後外国の方に紹介したりする時に、今回学んだやさしい日本語を生かせると思いました。

【この事業についての問合せ】

公益財団法人 目黒区国際交流協会 (MIFA) 【電話番号】 03-3715-4671 【Email】 info@mifa.jp

やさしい日本語とは

外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のこと

- 1995年の阪神・淡路大震災後、災害発生時に外国人にできるだけ早く正しい情報を伝えられるよう考え出され、東日本大震災時に意義が再確認された。
- 日常生活において、近年は来訪・在住外国人の増加などを受け、行政情報の発信や様々な分野におけるコミュニケーションのツールとして普及が進んでいる。



▶特集 「令和3年度 青少年健全育成地区委員会 新しい日常を踏まえた取組に関するアンケート」結果

地区委員会の皆様が日頃から取り組まれている青少年健全育成活動について、新しい日常を踏まえた実施状況を取りまとめました。

実施期間：令和3年10月～11月

実施方法：区市町村を通じ都内の地区委員会あてにアンケート用紙を送付

主な調査内容：令和2年度～令和3年度に実施した事業について調査

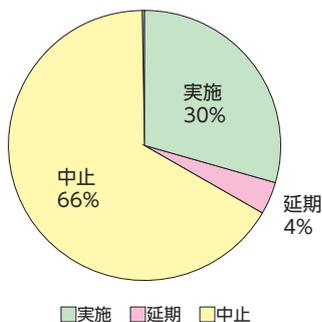
- ①青少年健全育成活動（実施状況、「新しい日常」を踏まえた活動等）
- ②多文化共生事業（地域の外国人の方との交流状況）

回収率：63.8%

1 青少年健全育成活動

Q1 青少年向けの事業の実施状況について（複数回答可）

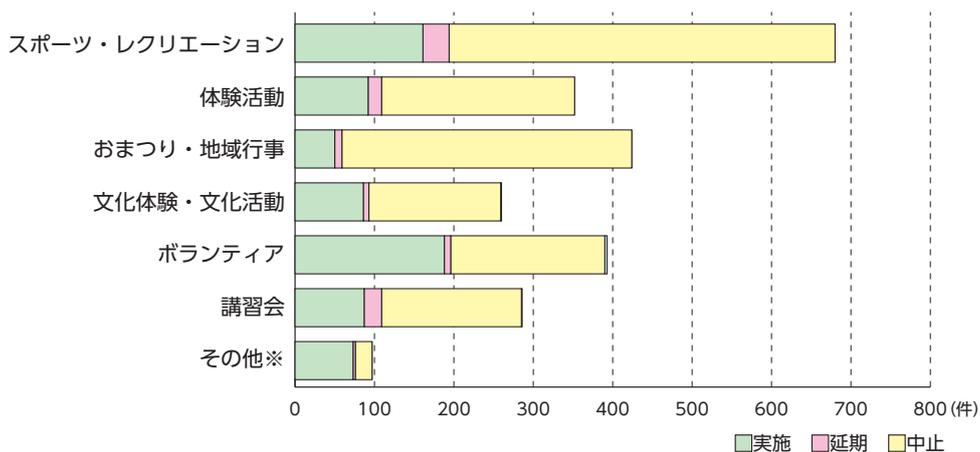
1 事業の実施状況（全体）



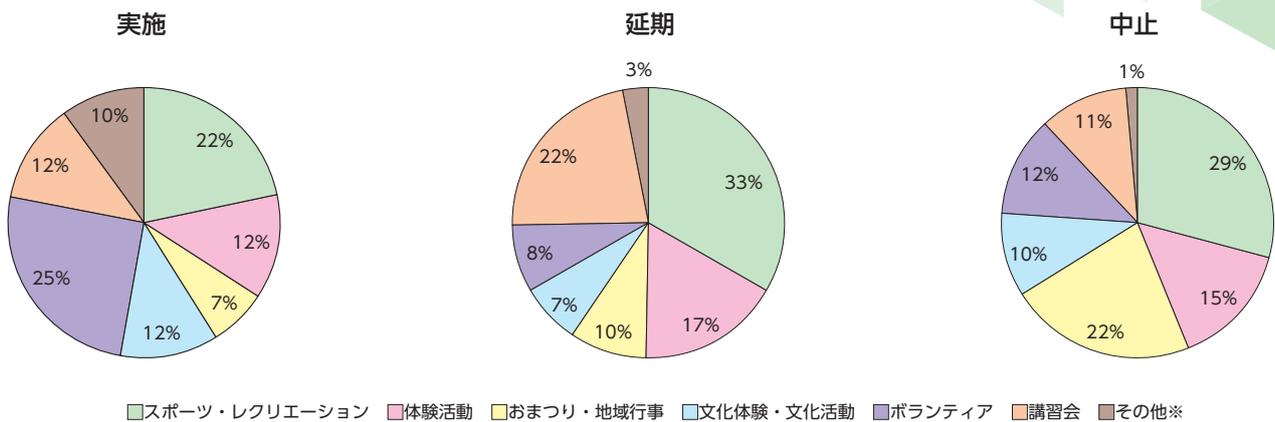
○実施は30%（737件）、延期（99件）と中止（1,651件）をあわせて70%（1,750件）となった。

→新しい日常を踏まえ、少しずつ実施事業が増えてきていると思われる。

2 事業の実施状況（分野別）



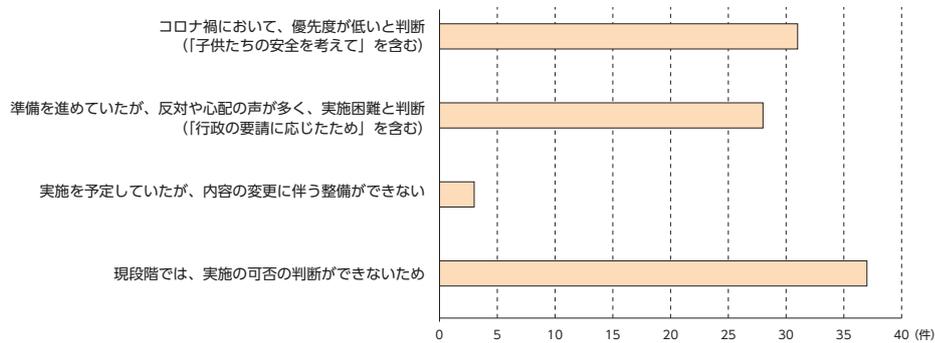
※その他：会議、中学生の主張、広報誌発行など



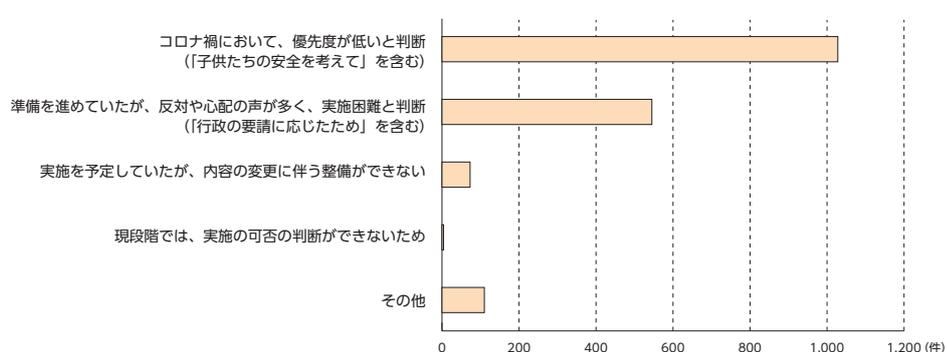
- 「実施」で最も多いのはボランティア、2番目に多いのがスポーツ・レクリエーション、3番目が体験活動、文化体験・文化活動、講習会
内訳としては、ボランティアで最も多いのが防犯パトロール、次いでクリーン活動だった。スポーツレクリエーションではスポーツ大会が最も多く、次いでウォークラリー、その他スポーツ事業が多かった。体験活動で最も多いのは工作教室、次いでワークショップ（作品制作等）だった。その他の体験活動の中には、オンラインを活用した体験（オンライン施設見学等）も見られた。
- 「延期」で最も多いのはスポーツ・レクリエーション、2番目に多いのが講習会、3番目が体験活動
内訳としては、スポーツレクリエーションではウォークラリー、スポーツ大会、バスツアーなどが多かった。講習会では自転車安全講習会、防災講習などが多かった。体験活動では工作教室、自然体験・キャンプ、ワークショップ、調理体験などが多かった。
- 「中止」で最も多いのはスポーツ・レクリエーション、2番目に多いのがおまつり・地域行事、3番目が体験活動
内訳としては、スポーツ・レクリエーションではスポーツ大会の中止が最も多く、次いでバスツアーが多かった。おまつり・地域行事では子どもまつり等おまつりの中止が一番多く、次いでもちつき、凧揚げ等が多かった。体験活動では工作教室、自然体験・キャンプ、ワークショップ、調理体験などが多かった。

3 延期・中止の理由

(1) 延期の理由



(2) 中止の理由



- 「延期」の理由で最も多いのは「現段階では実施の可否の判断ができないため」、次いで多いのは「コロナ禍において優先度が低いと判断」、3番目は「準備を進めていたが、反対や心配の声が多く、実施困難と判断」であった。
- 「中止」の理由で最も多いのは「コロナ禍において、優先度が低いと判断」、次いで「準備を進めていたが、反対や心配の声が多く、実施困難と判断」、3番目は「実施を予定していたが、内容の変更に伴う整備ができない」であった。また、そのほかの理由としては、少ないが、祭礼等の行事に付随して実施する事業であったところ、行事の中止に伴い中止としたという回答もあった。

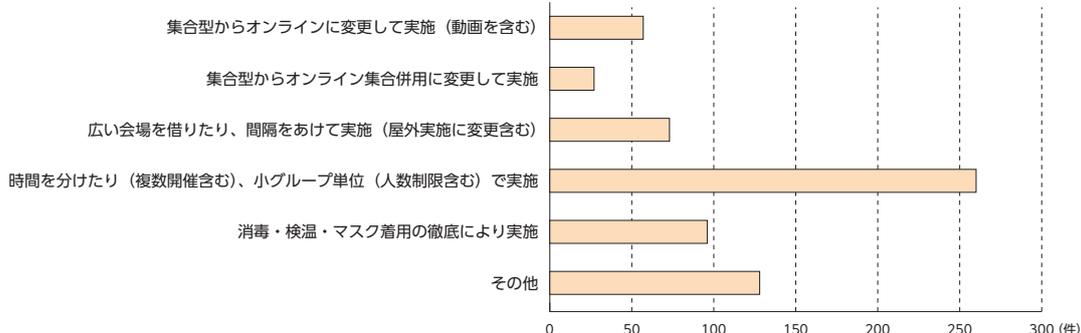
→中止については、コロナ禍において予定していた事業を中止にせざるを得なかったという経緯、また、延期については、実施に向けて時期を検討していたことがうかがえる。

▶特集 「令和3年度 青少年健全育成地区委員会 新しい日常を踏まえた取組に関するアンケート」結果

Q2 新しい日常を踏まえて実施した活動について

(1) 活動する上での工夫点について

実施にあたり具体的な工夫内容 ※回答記述内容を類型化し集計



【具体的な内容】 抜粋

○集成型からオンラインに変更して実施 (動画を含む) / オンライン集合併用に変更して実施

- ・Zoom等を使用し、オンライン開催。(研修会)
- ・講演を無観客で行い、録画撮影し作成したDVDを関係機関に配布。(講演会)
- ・オンライン配信。(コンサート、スポーツ大会開会式)
- ・会場開催と併せてオンラインで同時配信。(地域懇談会等)

○広い会場を借りたり、間隔をあけて実施 (屋外実施に変更含む)

- ・屋外で実施し、スタート時間を分けて密を防止。(スタンプラリー、工作教室等)
- ・いつもより広い会場にて実施。(研修会、講習会)
- ・広い会場で、人数制限をし、マイク・スピーカーを使い、読み上げを実施。(かるた大会)

○時間を分けたり (複数開催含む)、小グループ単位 (人数制限含む) で実施

- ・家族をチームとして実施。(ポッチャ大会)
- ・集合に時間差をつけ、学年別にするなど、出来るだけ参加人数を抑えて実施。(清掃活動等)
- ・検温、グループごとに時間間隔を空けスタート。一方向だけでなく逆方向のコースも用意し、グループを分散して密を防止。各チェックポイントに消毒類を設置。(防災ウォーキング)
- ・衛生用品の調達、公園に石灰で円を描き、その中にチームごとにとどまり開会式を行った。(ウォークラリー大会)

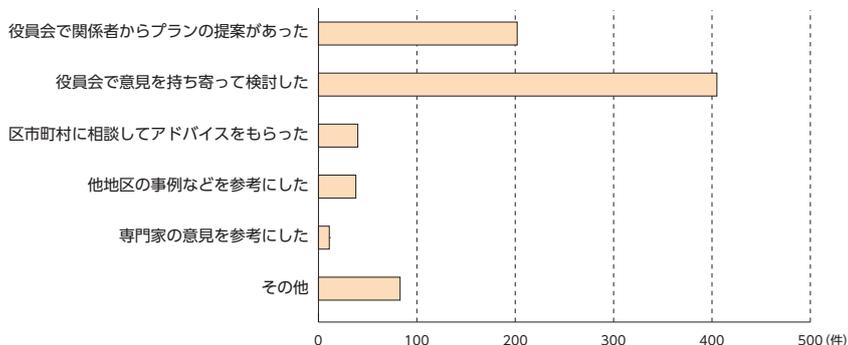
○消毒・検温・マスク着用の徹底により実施

- ・参加児童とチーム関係者のみとし、健康チェック表の提出及び来場者の名前や連絡先も集約し2週間保管、体調が悪くなる方がいないことが確実にになったら個人情報廃棄。各チームに消毒液配布。会場トイレにはハンドソープを設置。(サッカー大会)

○その他

- ・スケート教室の代替事業として、凧揚げキットを希望者に配布。冬休みのお家時間で作成してもらい、1月にキット申込者配布限定で凧揚げ体験会を実施する予定だったが、緊急事態宣言下となり中止。実施にあたっては、開催時間を4タームにして、他校と交わらない、1回の参加人数が50人以下になるように検討。(凧作り)
- ・バスツアーを中止し、代替事業として自宅から参加できるオンライン工場見学を実施予定。(オンライン工場見学)

実施に至る経緯 (複数選択可)



○実施にあたり具体的な工夫内容としては、「時間を分けたり (複数開催含む)、小グループ単位 (人数制限含む) で実施」が最も多く、次いで「消毒・検温・マスク着用の徹底による実施」、「広い会場を借りたり、間隔をあけて実施 (屋外実施に変更含む)」の主旨の回答が多かった。その他、違う事業に代替して実施という例も見られた。

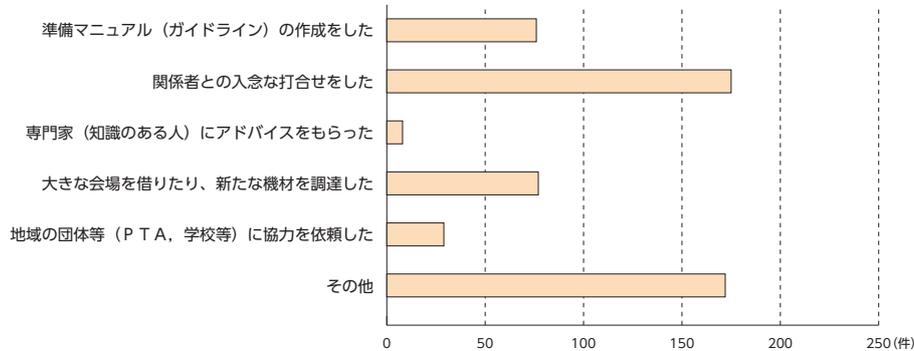
○実施に至る経緯としては、「役員会で意見を持ち寄って検討した」「役員会で関係者からプランの提案があった」など役員会等で検討した経緯が最多だった。このほか、回答数は多くはないが、「他地区の事例などを参考」「区市町村や学校に相談」という例も見られた。

→3密を避けるため、実施方法を変更するほか、事業自体を見直し他の事業におき替えて実施するなど、各地区委員会で様々な方法を検討し、活動していることがわかる。

Q2 新しい日常を踏まえて実施した活動について

(2) 準備について (内容、苦勞した点や課題)

準備内容 (工夫に伴い発生した準備など) ※回答記述内容を類型化し集計



【具体的な内容】 抜粋

○準備マニュアル (ガイドライン) の作成をした

- ・感染症対策マニュアルを作成し、チェックリスト等で感染対策を確認して運営した。(工作教室、調理教室、おまつり、意見発表会等)

○関係者との入念な打合せをした

- ・役員のリモート会議を直前まで複数回実施し、実施の可否を最後まで十分に検討した。
/ 地区委員と子供会に意見を聞いた。(オリエンテーリング)
- ・各小学校の校長先生と何度も打合せをした。会場も小学校の体育館を借りた。(少年の主張大会)
- ・学校の敷地内の田んぼ等での作業のため、小学校の先生と話し合いをした。(農業体験等)
- ・何度も打ち合わせを重ね、実施方法を検討した。
/ 地域の高校生、大学生を中心にできることを検討した。(火起こし体験等)
- ・委員で地域を歩き、問題を考えた。/ 委員が何度も下見をした。(ウォークラリー)

○専門家 (知識のある人) にアドバイスをもらった

- ・アドバイザーの方とコロナ禍での開催について検討し、広い会場へ変更した。(オンラインと集合を併用した講演会)
- ・オンラインに詳しい知人から準備中にアドバイスや当日のサポートをもらった。(研修会)
- ・専門家のアドバイスによりプログラムを検討した。(サッカー教室、スポーツ大会)

○大きな会場を借りたり、新たな機材を調達した

- ・屋外会場を借りる、大きな会場を借りる、感染防止グッズの調達をした。(ワークショップ、講演会、研修会等)
- ・(オンライン) 機材の調達をした。(講演会、研修会)
- ・換気するため、暖房が効かないことを考え、使い捨てカイロを準備した。(講演会)
- ・密を防ぐため、バスの台数を1台増やした。(バスハイク)

○地域の団体等 (PTA、学校等) に協力を依頼した

- ・地域の団体 (NPO、PTA等) に感染防止対策などへの協力を依頼した。(おまつり)
- ・感染防止対策等について学校と協議をした。(かるた制作)
- ・協力者が密にならないよう学校やPTAと検討した。(学校パトロール等)

○その他

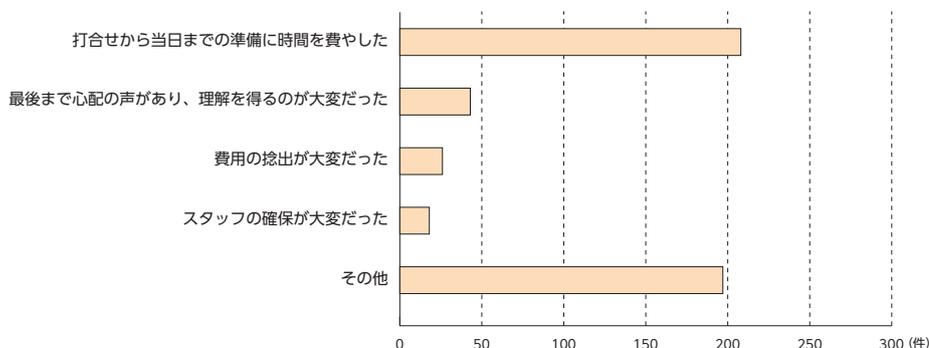
- ・事業終了後、速やかにお帰りいただくため、立て看板を作成した。(どんど焼き等地域行事)
- ・配布物を一人ずつに分けておいた。感染症対策のためスタッフの人数を絞り、手指消毒、マスク、手袋をして袋詰めをした。
(豆まき等地域行事)
- ・書面開催の書類の作成・資料発送等をした。(会議)
- ・持ち帰りでの実施となったため、子供が一人で読んで作成方法を理解できる説明書を作成した。(木工教室)
- ・感染防止グッズの調達 (消毒液、マスク、手袋、洗剤、体温計、アクリルパーテーション等)、道具の消毒、参加票 (名簿)、健康チェックシート作成をした。(複数事業)
- ・飲食を中止した。(体験教室)

▶特集 「令和3年度 青少年健全育成地区委員会 新しい日常を踏まえた取組に関するアンケート」結果

Q2 新しい日常を踏まえて実施した活動について

(2) 準備について (内容、苦勞した点や課題)

苦勞した点や課題 ※回答記述内容を類型化し集計



【具体的な内容】 抜粋

○打合せから当日までの準備に時間を費やした

- ・感染防止対策に伴う準備に時間を要した。(会場の変更、会場内に感染防止対策を盛り込むこと)(小学生向け学習会等)
- ・感染症対策の準備は、例年と異なる対応になるため、予想以上に時間がかかることが分かった。(研修会)
- ・感染拡大状況を見ながらの準備であるため、実施の決定を直前までできない場合があった。(スポーツ大会等)
- ・パソコンの購入、ホームページの立ち上げなどから始めなければならなかった。(オンラインイベント)
- ・通信環境の確認に苦勞した。当日も、電波の状況が良くない時があったり、オンライン中にマイクのコードが抜けてしまい音声がかえなかったりと、小さなハプニングもあり大変だった。進行に沿ったシナリオ作りは一番時間を費やし苦勞した。(中学生の主張)
- ・時間短縮を図るためのルールや感染防止対策等の策定に時間を要し、関係者との調整にも時間がかかった。(スポーツイベント)
- ・観戦者(応援)の会場内スペースや導線確保等、会場設営を再考する必要があるがあった。(スポーツイベント)

○最後まで心配の声があり、理解を得るのが大変だった

- ・スタッフの中でも実施を疑問視する声があり、理解を得るのに苦勞した。(スポーツ大会)
- ・実施すること自体を憂慮する方からご意見をいただくなど、理解を得るのに苦勞した。(スポーツイベント)
- ・集まったの活動に不安を感じる役員がいた。(会議)

○費用の捻出が大変だった

- ・感染防止対策のために購入する消耗品(手指消毒液やペーパータオルなど)が発生した。(スポーツ大会、清掃活動)
- ・貸切りバスを1台増やした。(バスハイク)
- ・オンラインのための費用(通信機器の使用料等)が発生した。(講演会等)
- ・役員会の書面開催のための費用(ハガキ、郵送料)が発生した。(会議)

○スタッフの確保が大変だった

- ・分散させることで、安全確保のためのスタッフの人数が不足した。(防災事業等)
- ・現地集合、現地解散のため駅から現地までの移動時に、随所に委員を配置する必要があるがあった。(親子自然体験イベント等)

○その他

- ・毎日使うタスキを毎回洗濯・消毒した。(パトロール)
- ・風作りキットを配布したが、準備等で負担が多かった。また予想よりも多くの配布となったため、数が足りなくなり追加で準備を行った。(風作り)
- ・感対対策を行いながら、子供たちが楽しめるイベント内容を考えることに苦勞した。(地域行事)
- ・感染防止グッズの調達など、準備品が増えた。(ワークショップ、講演会、研修会等)
- ・一堂に会しての実施ができなかったため、学年、クラスによって対応に違いが出た。(俳句大会)
- ・分散したことで、スタッフの活動時間が長くなった。(パトロール等)
- ・新しい試みなので、認識の共有に苦勞した。(おまつり)
- ・コロナに感染した場合の連絡先などの情報をどう周知するかが課題だった。(講演会)

○準備内容(工夫に伴い発生した準備など)については、「関係者との入念な打合せをした」が最も多く、次に「準備マニュアル(ガイドライン)の作成をした」、3番目に「大きな会場を借りたり、新たな機材を調達した」が多かった。「その他」の回答の具体的な内容は基本的な感染症対策に関するものが多かった。

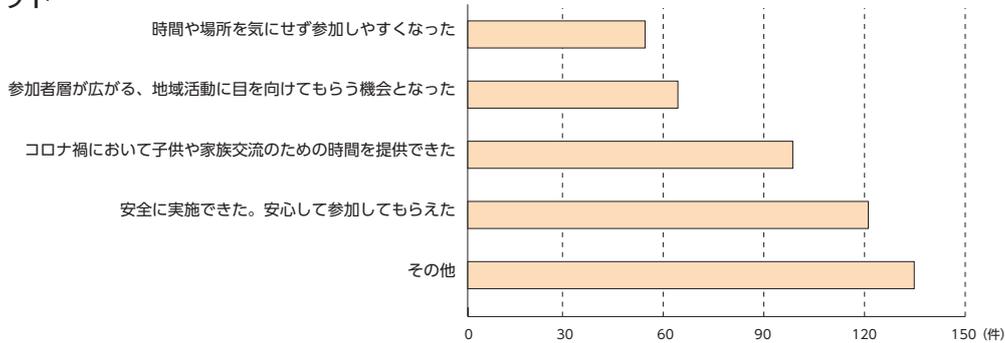
○準備する上で苦勞した点や課題としては、「打合せから当日までの準備に時間を費やした」が最も多く、次いで「最後まで心配の声があり、理解を得るのが大変だった」、「費用の捻出がたいへんだった」、「スタッフの確保が大変だった」の順に続いた。「その他」の意見の具体的な内容としては、基本的な感染症対策に関する回答が多かった。

→新たな方法で実施することから、専門家への相談や関係者との打合せが増え、感染症対策も含め、ガイドラインを作成したところが一定数あった。また、具体的な実施例をみると、各地域の実情に応じて多岐にわたる事業を実施しており、それぞれ工夫をして活動していることがわかる。

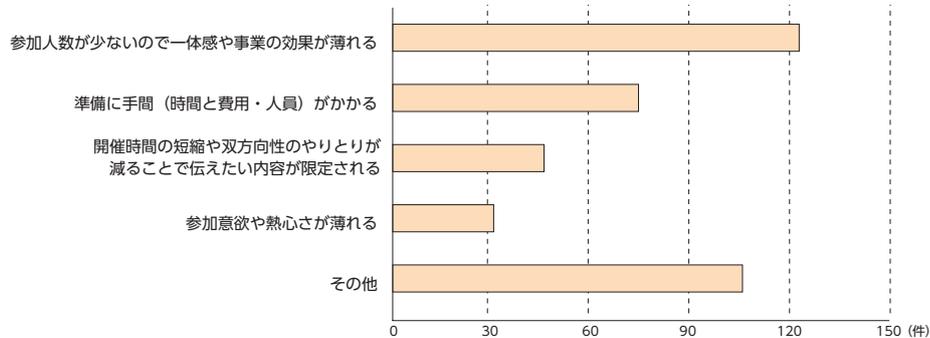
Q2 新しい日常を踏まえて実施した活動について

(3) 工夫したことによるメリット、デメリット ※回答記述内容を類型化し集計

メリット



デメリット



○メリットとしては、「安全に実施できた。安心して参加してもらえた」が最も多く、次いで「コロナ禍において子供や家庭交流のための時間を提供できた」、「参加者層が広がる、地域活動に目を向けてもらう機会となった」、「時間や場所を気にせずに参加しやすくなった」の順に多かった。「その他」の具体的内容としては、「実施できてよかった」、「少人数なので効率よく実施できた」等の回答が多かった。また、「事業を見直す機会となった」という意見もあった。

○デメリットとしては、「参加人数が少ないので一体感や事業の効果が薄れる」が最も多く、次いで「準備に手間（時間と費用・人員）がかかる」、「開催時間の短縮や双方向性のやりとりが減ることで伝えたい内容が限定される」、「参加意欲や熱心さが薄れる」の順に回答が多かった。「その他」の回答としては、「屋外イベントのため天候に左右される」のほか、「感染対策がうまくいっているか不安」、「参加者が少なく残念」といった気づきや感想も寄せられた。

→さまざまな工夫により、子供のために安全に実施できたという成果につながっている一方で、3密を避けるなどにより、一堂に集まることで得られた効果が薄れたり、従来の準備より手間（時間、費用、手間）がかかる傾向にあることがわかる。

▶特集 「令和3年度 青少年健全育成地区委員会 新しい日常を踏まえた取組に関するアンケート」結果

Q2 新しい日常を踏まえ実施した活動について

(3) 工夫したことによるメリット、デメリット

メリット【具体的な内容】 抜粋

○時間や場所を気にせず参加しやすくなった

- ・参加しやすい。会場に足を運ばなくてもよいので、都合をつけやすい。(オンライン研修会、講演会等)
- ・参加者が自宅で自分のペースで作成できる。(持ち帰りのワークショップ)
- ・自宅から気軽に参加でき、外出自粛が続く中、親子で交流する時間を提供できる。(オンラインクエスト)
- ・役員に負担なくパトロールの回数を増やすことが出来た。参加しやすい。(ながらパトロール)

○参加者層が広がる、地域活動に目を向けてもらう機会となった

- ・例年より多くの方に見てもらえるなど、参加者層の幅が広がる。(オンライン研修会、講演会等)
- ・外出自粛が続く中、親子で交流する時間を提供することができる。/地域に目を向けてもらう機会となる。(オンラインイベント)
- ・誰でも気軽に参加できるため、幅広い年齢層の参加が可能となった。(スマホ活用したデジタルウォークラリー)
- ・地区委員会と学校の連携により、今後の育成事業の幅が広がった。(学校と連携した小学生対象ゲーム)
- ・遠くまで行かないため、より幅広い年齢層の子供たちが参加可能となった。(ウォークラリー)

○コロナ禍において子供や家族交流のための時間を提供できた

- ・お家時間を活用し、親子で交流する時間を提供できた。(俳句大会・分散型作品展)
- ・1チーム1人の大人参加必須としたため、家族単位での参加が増え、家庭内交流の場を提供できた。子供が喜んでくれて良かった。(ウォークラリー)
- ・多くの地域行事が中止となる中での実施であったので、地域コミュニティの活性化につながった。(クリーン活動)
- ・少しでも活動することで、コロナ禍で減ってしまった子供たちが楽しむ場を提供できる。(ウォークラリー)

○安全に実施できた。安心して参加してもらえた

- ・コロナ禍でも会場に多くの人が集まらなくてもよいので良かった。(オンライン集合併用の研修会)
- ・コロナ対策を徹底することで、安心して参加できる。(複数事業)
- ・ウォーキングのため自然と距離が取れ、感染対策になる。(防災ウォーキング)

○その他

- ・前後の準備が楽になった。会場設営等当日の準備が不要となった。(動画による研修会)
- ・分散集合により、各時間の参加人数が減ったことで、参加者により丁寧な説明を行うことができた。(分散型イベント)
- ・事業内容を見直す機会になった。/新たな企画を考える機会となった。(複数事業)
- ・小人数なので、一人一人の指導がしやすい。(講習会)
- ・オンライン技術を活用した事業実施の土台作りができた。家庭で事業を楽しんでもらうことができた。(オンライン実験教室)
- ・コロナ禍だからと一律に中止にするのではなく、工夫して事業を行う良い前例となった。(ウォークラリー)

デメリット【具体的な内容】 抜粋

○参加人数が少ないので一体感や事業の効果が薄れる

- ・コロナのため、子供たちとの距離があった。(地域清掃)
- ・子供たちとの時間が減る。参加スタッフとの一体感が減る。(体験イベント)
- ・青少年の社会参加の機会という本来の目的が叶わず、単なる地域清掃となった。(清掃活動)
- ・人数を減らして実施しているため、学校、保護者を巻き込んだ地域での見守りができなかった。(夜間パトロール)
- ・一堂に会しての表彰式が実施できないことから、表彰される子供たちの意識の高揚等を図れない。(書き初め大会)

○準備に手間(時間と費用・人員)がかかる

- ・通常の安全管理に加え、感染症対策用スタッフの配置や、新しい形式での開催に向けた事前資料作成量が増加した。(地域行事等)
- ・感染予防対策が大変だった。(パトロール、レクリエーション等)
- ・開催を心配する方への対応が必要だった。(学校支援)
- ・機材の購入、配線関係の準備が必要になった。(WEB会議等)
- ・定員がないため、材料・道具の費用が予算を超過、会場に作品を飾りきれないなどの可能性がある。(持ち帰り型工作教室)

○開催時間の短縮や双方向性のやりとりが減ることで伝えたい内容が限定される

- ・参加がインターネット環境に左右される。/画面越しでは参加する子供の様子が詳細に把握できず、コミュニケーションが取りづらかった。(オンラインと集合形式を併用したイベント)
- ・規模を縮小して開催したことで、子供たちの日頃の練習の成果を地域の方々に見てもらうことができなかった。(スポーツ大会)
- ・質問や感想など双方向のやり取りができなかった。/グループ討議ができない。(オンライン講演会)
- ・座席配置がスクール形式なので、活発な意見交換がしづらい。(研修会)

○参加意欲や熱心さが薄れる

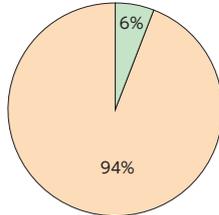
- ・地区委員会が子供と直接コミュニケーションを取る機会が少ない。(持ち帰り型工作教室)
- ・競技に制限があり、満足感や参加意欲が薄れる。(運動会)
- ・参加の動機づけや参加確認が難しい。(家でラジオ体操)

○その他

- ・参加者を実際に見ることができないので、事業の評価がわかりづらい。(オンライン実験教室)
- ・地区伝統のコミュニケーションが不足する。(オンライン講演会)
- ・スマートフォンなどの端末の不具合には対応できない。
/一日中ゲームに熱中してしまう参加者が出てくる。(オンラインクエスト)
- ・屋外に変更のため天候に左右される。(屋外イベント)

2 多文化共生事業

Q1 地区委員会の活動を実施する際の、地域在住の外国人の方への声掛けについて



- 「実施している」は6%
- 「実施していない」は94%
→ほぼ「実施していない」という回答

■実施している ■実施していない

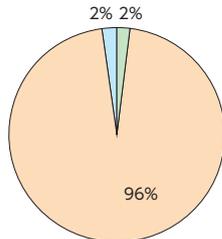
【実施している】回答のコメント抜粋

- ・地域の特性として各行事に外国人の参加がある。
- ・自治会活動や放課後教室のスタッフとして参加してもらうように声をかける。
- ・メンバーである。
- ・地域在住の外国人の方が運営するお店を子ども110番の家に登録していただき、伝統文化の発表イベントを実施した。
- ・小学校に通うすべての子供と保護者に対し声掛けする。
- ・言語などで困りごとがあれば通訳ボランティアで対応する。

【実施していない】回答のコメント抜粋

- ・地域在住外国人がいるかわからない。
- ・特に声掛けをしていないが、地域の小学生に外国人の方が多いので、事業への参加もある。
- ・特段外国人に声掛けをするという意識はないが、結果的に外国人が直接的、間接的に活動に携わる場面もある。
- ・実施していないがいつでも受け入れる。

Q2 地域在住外国人との相互理解のための活動について



- 「実施している」と「検討中」をあわせて4%
- 「実施していない」が96%
→ほぼ「実施していない」という回答

■実施している ■実施していない ■検討中

【実施している】

- ・地区委員会企画（チラシ配布・体験レッスン形式）
- ・区市町村の事業を活用
- ・東京都の「青少年応援プロジェクト@地域」事業を利用
- ・その他（外国人も活動に参加）

【実施していない】

- ・特別の対策を講じずとも、地域在住外国人の家族は各種事業に参加している。
- ・特定の活動はしていない。
- ・語学力が問題で、日本語が通じれば対応できる。

【検討中】

- ・区市町村の事業を活用
- ・東京都の「青少年応援プロジェクト@地域」事業を活用
- ・今後の課題／機会があれば企画を相談
- ・その他（学校や地域集団の中での様子をみて、子ども食堂や勉強会に誘うようにしている。）

○Q1の地域在住外国人の方への声掛けについては、「実施している」場合、「地域の特性として外国人の参加がある」、「地域の外国人が運営するお店を活動の場にするなど協力してもらっている」など、事業への参加だけでなく活動の運営に関わっている例もあった。

また、「実施していない」の回答では、「地域在住外国人がいるかわからない」、「特に声掛けはしていないが、参加は自由」という内容が多くみられた。

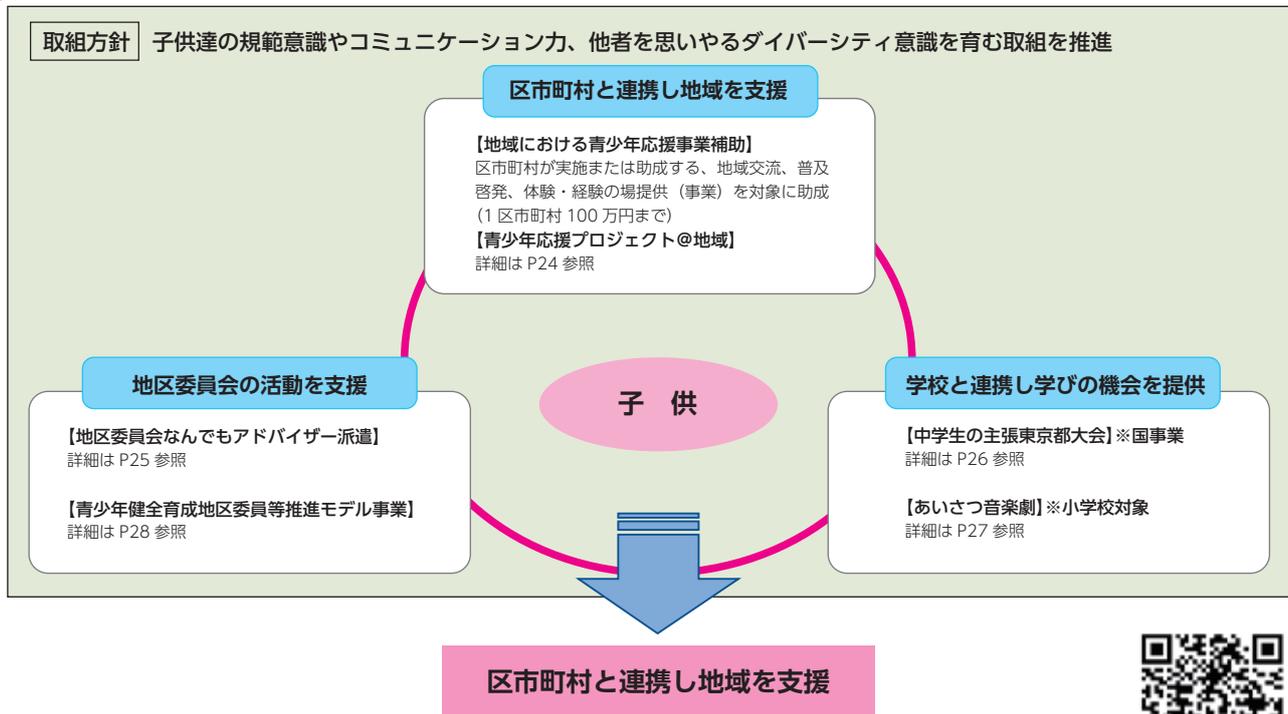
○Q2の地域外国人との相互理解のための活動については、「実施している」・「検討中」は4%と少ないものの、地区委員会による企画や区市町村や都の事業の活用による実施のほか、外国人も参加・活動しているという回答もあった。

また、「実施していない」の場合でも、「そもそも対象を限定していない」というコメントが多いほか、日本語が課題になっているという意見もあった。

→実施数は少ないが必要に応じて企画・対応しているという回答が複数あった。基本的には、特に対象を限定せず外国人も自由参加できる事業が多いものの、実施にあたっては日本語によるコミュニケーションも課題の一つとなっているという意見もあり、地域で様々な検討をしていることがうかがえる。

▶ 参考情報 東京都の青少年健全育成事業（概要）

東京都は、次代を担う青少年を地域全体で健全に育成するために、次のような事業を実施しています。



地域で子供を育てよう

—「新しい日常」を踏まえた青少年健全育成活動に向けて—

現在、各地域では、次代を担う子供たちの健全育成の大切さを感じながらも、実施に向けて苦慮されていることと思います。

この状況を見え、今後、地域における活動の輪が様々な形で広がることを願い、「新しい日常」における取組の工夫をまとめましたので、参考としていただければ幸いです。

- 地域のみならず安心して参加いただけるよう工夫した3つの活動事例とともに、他地域で実施するための専門家によるアドバイスを紹介します。
- 実態プロセスの中で、新しいつながりの輪を育み、地域ぐるみで活動を行った近隣都市の青少年問題協議会第一地区委員会の取組を紹介します。

地域活動の工夫

<h5>集まって活動</h5> <p>【進行方法を工夫する】 少人数、短時間、時間差を分けるなどの工夫で、集まって活動します。</p> <p>① じゃがいもクラブ (青少年問題協議会地区委員会 / 豊田区)</p>	<h5>個別に活動</h5> <p>【活動成果を持ち帰る】 個人や家庭単位で活動して、その成果を持ち帰り、共有します。</p> <p>② みねまち親子木工教室 (青少年問題協議会地区委員会 / 大田区)</p>	<h5>オンラインで活動</h5> <p>【この機会にチャレンジ】 新たなチャレンジとして、パソコンやスマートフォンなどを活用します。</p> <p>③ 職場体験・動画版 (東京都青少年問題協議会 / 墨田区)</p>
---	---	---

アドバイザー
（パンフレット印刷）

安部 啓さん
東京都 地区委員会なんでもアドバイザー 講師
(株式会社 石塚計画デザイン事務所 代表取締役)

まちづくりコンサルタントとして、各地で地域課題の解決に向けた話し合いや地域活動の企画・実施のコーディネートを行っています。そのノウハウを生かして、地区委員会の活動へのアドバイスをを行っています。

東京都

「新しい日常」を踏まえた地域活動が広がりつつあります。東京都は、今後、地域における活動の輪が様々な形で展開することを願い、「新しい日常」における地域の取組をまとめたパンフレットを作成しました。（令和2年度）

地域活動を行う上での工夫ポイントや専門家によるアドバイスも紹介しています。

これからの地域活動の取組の参考資料として御活用ください。

下記 URL 及び QR からダウンロードできます。

地域で子供を育てよう

—「新しい日常」を踏まえた青少年健全育成活動に向けて—



https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/seishounen/ikusei/0000001558.html

▶参考情報 東京都の青少年健全育成事業 レポート

令和3年度 青少年応援プロジェクト@地域 レポート

東京都では、地域の中で青少年のダイバーシティ意識を育むため、青少年健全育成に携わる大人や地域の子供たちを対象に、講演会と交流体験イベントを実施しています。

令和3年度 実施状況（令和3年12月末現在） ※1月以降は予定

	実施日	区市町村	テーマ	講師	講演テーマ	
1	7月1日	木 板橋区	高齢者	柏崎 桃子	介護福祉士・お笑いタレント	多世代が交流する地域をめざして
2	7月10日	土 台東区	障がい者	神保 康広	車いすバスケットボール 元日本代表	障がいってなに？障がいって可哀そう？
3	10月6日	水 江東区	多文化	シャーフセイン・ シャー	柔道パキスタン代表 100kg級	日本とパキスタンの架け橋へ
4	10月12日	火 足立区	多文化	にしゃんた	羽衣国際大学 教授・ タレント	“ちがい”を楽しみ、力にかえる
5	10月15日	金 江戸川区	多文化	西岡 詩穂	フェンシング プレイヤー コーチ	世界で感じた異文化とスポーツのあり方
6	10月17日	日 江東区	多文化	アンドリュー・ マコーミック	元ラグビー日本代表 キャプテン	国際社会に求められるこれからの リーダーシップ
7	11月11日	木 三鷹市	障がい者	国沢 真弓	フリーアナウンサー・ 自閉症スペクトラム支援士	気になる子どもへのかかわり方 ～発達障害の特性を知り、理解を深める～
8	12月4日	土 日野市	多文化	シャーフセイン・ シャー	柔道パキスタン代表 100kg級	日本とパキスタンの架け橋へ
9	1月27日※	木 調布市	多文化	ダイアン吉日	バイリンガル落語家	夢をおいかけて ～若者たちへのエール～
10	2月3日※	木 練馬区	障がい者	国沢 真弓	フリーアナウンサー・ 自閉症スペクトラム支援士	発達障害をもっと知ろう！ ～伝え方、話し方のヒント～
11	2月5日※	土 羽村市	多文化	小林 通孝	声優	世界をつくる！！ 声優ってどんな仕事？
12	2月12日※	土 荒川区	多文化	にしゃんた	羽衣国際大学 教授・ タレント	“ちがい”を楽しみ、力にかえる
13	2月26日※	土 国分寺市	多文化	ダイアン吉日	バイリンガル落語家	夢をおいかけて ～若者たちへのエール～

〈当日の様子〉

テーマ：多文化への理解

日時：令和3年10月17日（日）13時30分～15時30分

会場：江東区文化センター

参加者：19名

講師：アンドリュー・マコーミック氏（元ラグビー日本代表キャプテン）

第一部：【講演会】国際社会に求められるこれからのリーダーシップ

第二部：【ラグビープチ体験】

外国人選手として初めてラグビー日本代表キャプテンに選出されたマコーミック氏から、国際社会の中で必要なリーダーシップやコミュニケーションの取り方について、ジュニアリーダーに向けてお話しいただきました。第二部では、英語を交えて対戦形式でミニゲームを行い、楽しく交流を深めました。



【参加者の感想】

「実際に体を動かして『判断』と『聞くこと』の重要性が分かりました。とても有意義な時間で楽しかったです。」
（中学生）

「ラグビーでもジュニアリーダーでも、チームワークはとても必要で、相手のことを考えて思いやりの心を持って行動すべきだと分かりました。」（高校生）

青少年応援プロジェクト@地域

内容：「多文化への理解」「障がい者への理解」「高齢者への理解」の3つのテーマの中から選択し、各テーマの著名な講師を派遣。【出演者による講演会】【出演者の特性を活かした交流体験・情報交換】の二部構成プログラムを想定。

対象：①青少年 ②青少年の健全育成に携わる地区委員及び区市町村の地域住民等

経費：無料（会場はご用意ください。）

実施：年末年始を除く土日祝日実施も可（午前9時頃～午後9時頃）

時間：100分程度

人数：50人～300人程度



▶ 参考情報 東京都の青少年健全育成事業 レポート

令和3年度 地区委員会なんでもアドバイザー派遣 レポート

東京都では、地域の課題の解決に取り組む青少年健全育成地区委員会を支援しています。地域活動の活性化に役立つ様々な知識をもつ専門家をアドバイザーとして派遣し、地区委員会活動の悩みを解決する取組について、一緒に考えています。

令和3年度 実施状況（令和3年12月末現在）

合計 21 回（見込） 実施済み 10 回 実施予定 11 回

16 区市の地域 中央区、台東区、江東区、品川区、大田区、世田谷区、中野区、豊島区、荒川区、板橋区、
（予定含む） 練馬区、足立区、江戸川区、武蔵野市、東村山市、稲城市

〈当日の様子〉

日 時：令和3年7月10日（土）10時00分～12時00分

会 場：大田区池上会館 集会室

参加者：68名

講 師：安富 啓氏（株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役）

内 容：【講義（60分）】 コロナ禍における活動事例から学ぶ

はじめに、コロナ禍で活動が止まったことを「活動を見つめ直す時間ができた」と前向きに捉えることの大切さを共有しました。具体的な取組事例として、コロナ禍で工夫して実践された活動や、安心安全な地域づくりにつながる楽しいイベントなどを紹介しました。さらに、オンラインは代替策ではなく新たな選択肢と位置づけ、オンラインに抵抗がある参加者が多い中で、ポジティブな視点でオンライン活用を提案してもらいました。

【感想共有タイム（40分）】

講義の感想や実現できたら良いなということについて、個人ワークしたものを6名程度のグループごとに話し合いました。

参加者の感想

- ・ 具体例が分かりやすく、参考になりました。
- ・ 自分の地区でも取り上げたいと思いました。
- ・ この内容を地域の皆さんと共有できればと思います。
- ・ 今まで出来たことが出来ないもどかしさなどがありましたが、工夫次第で出来ることが色々あることが分かりました。
- ・ コロナ禍をチャンスにするという発想に光をもらいました。



地区委員会なんでもアドバイザー派遣

内 容：セミオーダー式の講義やワークショップによるアドバイス

対 象：都内の地区委員会（複数の地区委員会の合同でのお申込みも可能）

経 費：無料

会 場：学校、区市町村の会議室、ホール、公民館等（会場はご用意ください）

※ Web 会議システムを利用したオンライン実施及び併用も可能です

実 施：年末年始を除く土日祝日実施も可（午前9時頃～午後9時頃）

時 間：1回2時間以内

人 数：10名～20名程度（団体単位でお申込みください）

アドバイザー：大学講師、まちづくりコーディネーター、地域活動支援の専門家など

フォローアップ：後日、アドバイザーへの質問や相談が可能



令和3年度 中学生の主張 東京都大会 レポート

東京都では、都内の中学生を対象に、自分の考えや意見等をまとめた作文を募集し、スピーチコンクールを開催しています。中学生が日頃考えていることを知り、中学生に対する大人の理解を深め、青少年健全育成の推進を図る取組です。

令和3年度 実施状況

応募総数：5,932名

発表者：10名

日時・会場：令和3年9月12日（日曜日）
午後2時から4時30分まで
東京都庁第一本庁舎5階 大会議場

〈当日の様子〉

事前の作文審査で選ばれた10名は、障がい者理解、戦争、多様な性の在り方、SDGs等様々なテーマで“主張”を行いました。それぞれの表現で思いや考えを伝えたスピーチは、中学生ならではの視点や豊かで鋭い感性に溢れ、会場にいる方の心に響きました。



知事賞受賞者の坂口礼佳さん（都立武蔵高等学校附属中学校・3年）は『兄の話』という演題で、障がいを持つお兄さんに対して複雑な感情を抱きながらも、障がいという一面に囚われない兄の魅力を見つけ、喜びや自信を感じるようになった気持ちを、堂々と発表しました。

大会当日の様子は東京都の公式 YouTube【東京動画】で公開しています。
ぜひ、発表者の皆さんのスピーチを御覧ください！

配信ページ URL：

- ①【開会・発表】 <https://tokyodouga.jp/fwust5gweng.html>
- ②【表彰式】 <https://tokyodouga.jp/qlwjtmtd3ry.html>

①【開会・発表】



②【表彰式】



受賞者の作文は、「令和3年度中学生の主張東京都大会 発表文集」に掲載しています。

HPよりダウンロードしてお読みいただけます。
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/seishounen/ikusei/chuugakuseinoshuchou/files/0000001298/R3.pdf



※本事業は独立行政法人国立青少年振興機構より委託を受けて実施しています。

▶ 参考情報 東京都の青少年健全育成事業 レポート

令和3年度 あいさつ音楽劇 レポート

東京都では、他者とのコミュニケーションの第一歩として、あいさつ運動の気運醸成を行うため、「あいさつ」を題材とした音楽劇を実施しています。「あいさつの大切さ」「相手を思いやる心の大切さ」や「社会の基本的なルール」を学ぶほか、地域の大人に対しても「あいさつをすることの大切さ」等を考える契機としています。



令和3年度実施状況（令和3年12月末時点）※1月以降は予定

	実施校	実施日時	参加者数
1	町田市立町田第三小学校	9月3日（金）9:30～10:15	77人（全校約450人）
2	大田区立仲六郷小学校	9月10日（金）10:35～11:20	91人（全校約246人）
3	渋谷区立千駄谷小学校	9月25日（土）10:45～11:30	51人（全校約343人）
4	葛飾区立川端小学校	10月9日（土）10:45～11:30	110人（全校約379人）
5	東大和市立第九小学校	10月20日（水）10:25～11:10	88人（全校約280人）
6	練馬区立石神井小学校	10月27日（水）10:25～11:10	177人（全校約528人）
7	大田区立南六郷小学校	11月6日（土）10:25～11:10	55人（全校約376人）
8	練馬区立石神井台小学校	12月11日（土）10:25～11:10	99人（全校約562人）
9	江戸川区立南葛西小学校※	1月22日（土）11:05～11:50	100人（全校約609人）
10	府中市立府中第六小学校※	2月19日（土）10:15～11:00	360人（全校約765人）

〈当日の様子〉@練馬区立石神井小学校（12月11日）

新型コロナウイルス感染症対策として3・4年生のみが体育館で観劇、その他の学年は各教室でオンライン配信による視聴を行いました。体育館では、マスク・消毒などの基本的な感染対策を徹底した上で、各国挨拶のクイズでは手を挙げた児童に答えてもらい、小さな声で合唱も行いました。最初は静かに聴いていた児童も、1曲目、2曲目、3曲目と徐々に声が出始め、盛り上がりを見せていました。オンライン配信の教室では、映像も音声も良好で、児童も真剣に見ていました。

全学年集合しての実施が難しい中でも、各学年に「あいさつの大切さ」等を伝えることができました。

参加者の感想

- ・音楽を楽しみながら、改めて挨拶の大切さを学べるということは、とても良いと感じました。（先生）
- ・自分から挨拶しようとする児童も増えたように感じます。（先生）
- ・途中で立って歌う場面があり、楽しく参加できました。（児童）
- ・挨拶は本当に魔法の力があることが分かりました。（児童）
- ・これからは元気な声でいっぱい挨拶します。（児童）



あいさつ音楽劇「あいさつは魔法の力」

内容：「あいさつ」を題材にした音楽劇 ①学校挨拶②東京都挨拶③音楽劇上演及び合唱

対象：都内の小学校

経費：無料（会場は各学校でご用意ください）

実施：年末年始を除く土日祝日実施も可（午前9時頃～午後9時頃）

時間：約45分

人数：全学年参加のほか、保護者や地域住民等の多くの大人の参加も見込めること

※新型コロナウイルス感染症対策のため、人数及び実施方法等は応相談



▶ 青少年健全育成地区委員会等推進モデル事業 次年度の募集について

東京都は、都内の家庭、地域社会、学校が連携し、青少年を地域ぐるみで育成する取組を「推進モデル」として指定し、広く都内各地域に紹介します。

● 概要

【推進モデル指定条件】

推進モデルは、地域ぐるみで青少年を健全に育成することを目的とした、以下の（１）から（３）までを満たしている活動です。

- （１） 地域社会（地区委員会、NPO団体、町会、商店会等）、学校、関係機関等と連携を図って取り組んでいること
- （２） 活動地域が公立中学校の学校区域程度の範囲であること
- （３） 青少年の正義感や倫理観を育むと共に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど多様性の意識を育むために実施する取組で、以下のアまたはイに該当するものであること
 - ア 地域の中で青少年を育てる取組
 - イ 青少年の体験を豊かにする取組

また、今年度から重点テーマを設定しました。

【令和３年度重点テーマ】

- ・「新しい日常」を踏まえながら、地域で新たな協力の輪を広げた取組であること
- ・地域の外国人との交流を通じて、子供たちの多文化への理解を深めた取組であること

推進モデルに指定された場合

◇東京都が作成する「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例集」に、取組事例を掲載します。

事例集を東京都のホームページにも掲載することにより、取組事例を広く紹介します。

◇毎年開催される地区委員会の研修会でも取組事例を紹介させていただきます。

◇東京都知事表彰である「東京都青少年育成協力者等感謝状」の推薦対象となります。

● 令和４年度の「青少年健全育成地区委員会推進モデル事業」の募集について

令和３年度に実施した都内地区委員会等の取組について、区市町村を通じて３月に募集依頼予定です。皆さんの様々な工夫事例をお待ちしています。

【スケジュール（予定）】

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・募集 | （令和４年３月～５月） |
| ・ヒアリング | （令和４年５月） |
| ・モデル指定・モデル事例集原稿依頼 | （令和４年６月） |
| ・モデル事例発表 | （令和５年２月） |

参考リンク集

地域における青少年の健全育成事業



東京子供応援協議会



多文化共生の推進



若年支援



令和3年度 青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集

令和4年1月発行

登録番号 (3) 22

編集・発行 東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03 (5388) 3098

印刷 株式会社モモデザイン
〒167-0035
東京都杉並区今川三丁目20番10号
電話 03 (5303) 2790

